

通 報 訓 練

1 火 災 発 生



自動火災報知設備のベルが鳴りました。
どこかで火災です。

2 火災発生場所の確認



すぐに受信機で出火階を確かめ、
現場に行き、火災の有無を確認し
ます。
(このときには、消火器を携行します。)



3 館内への報知



ビル内に大きな声で、火事を知らせ
ます。

携帯拡声器等が準備されていれば、なお
良いでしょう。



4 消 防 へ 通 報



速やかに消防に通報します。

- 火災か救急か
- 所在地、ビル名
- 何が燃えているか
- 階数
- 目標物
- 危険物の有無など
- 通報者氏名・電話番号
を正確に通報します。

119 番通報要領

消 防	通 報 者
はい、119番消防です。火事ですか？救急ですか？	火事です ※119番へ通報訓練時は、初めに「訓練、訓練」と呼称すること。
場所はどこですか？	〇〇市〇〇町〇〇丁目〇番〇号 〇〇〇〇です。
何が燃えていますか？	〇〇が燃えています
逃げ遅れやけが人はいますか？	〇人が逃げ遅れ、〇人がけがをしています
近くに目標となる建物はありますか？	〇〇〇〇があります。(〇〇〇〇の北側です。)
あなたのお名前と連絡先を教えてください。	〇〇です。電話は〇〇〇 - 〇〇〇〇です。
わかりました。すぐ行きます。	

初期消火訓練（消火器）

●初期消火の目的＝火災を早期発見し、被害を最小限にとどめること

1 火災発生



電話が長引いているうちに、油鍋に火が入りました！

2 初期消火判断



天井まで火は届いていません。まだ消すことができます。

「火事だ！火事だ！」と叫びながら、周囲に火災を知らせます。

3 消火器の準備



慌てずに消火器を準備します



火元に向けて消火剤を放出します。火が消えたら、ガスの元栓を閉めます。

※ 消火後、天ぷら鍋の温度が完全に下がったことを確認してください。

4 消火活動



●よくある失敗例（油鍋に水）



油鍋に向かって水をかけると、炎が飛び散ってしまい大変危険です。

消火器の取扱い

- ・ いざという時のため、消火器の設置場所を日頃から確認しましょう
- ・ 消火器の放射時間（約 12 秒）を考えた、消火をしましょう。
- ・ 消火する場合は、自分の退路を考慮しましょう。

初期消火訓練（屋内消火栓）

屋内消火栓には2つのタイプがあり、それぞれ操作要領が違います。

1 1号消火栓

1号消火栓は、ホースが折りたたまれて消火栓ボックスに収納されているため、ホースを延長した後でないと水をホース内に流すことができません。このため、ホースを火元付近まで延長し放水すると消火栓のバルブを開放する人の、最低でも2人の操作員が必要となります。

①消火栓ポンプ起動



発信機のボタンを押し、消火栓ポンプを起動します。

②ホース延長



ホースにねじれがないように確認しながら延長し、出火箇所に向かいます。

③バルブ開放・放水

出火箇所に接近した操作員の放水準備ができたなら「放水はじめ！」の合図で、消火栓のバルブを開放し放水します。



注意

ホースを延長する前にバルブを開けると、水で充満したホースがボックス内に詰まって取り出せなくなる事があります。必ず操作手順を守ってください。



2 2号消火栓・易操作性1号消火栓

2号消火栓・易操作性1号消火栓は、ホースがドラムに収納されているため、収納状態でもホース内に水を流すことができます。このため、一人で操作することができます。

①バルブ開放

バルブを開放すると消火栓ポンプが起動します。



②ホース延長



ホースを持ちながら、出火箇所に向かいます。

③放水

ホースノズルのコックを開き放水します。



注意

1. 訓練中は安全を管理する担当者を設けましょう。
2. ホースを延長するとき障害となる物がないか確認しましょう。
3. 放水する時はノズルから絶対に手をはなさないようにしましょう。
4. 火災の時、いきなりドアを開けると空気（酸素）が流れ込み一気に火勢が強まることがありますので、まずドアを少し開いて、様子を見てからドアを開けましょう。

避難誘導訓練（階段・通路利用）

階段・通路を使用した場合



* 避難誘導する場合は、誘導灯を目安に安全な場所へ誘導して下さい。誘導灯がある避難口には、地上へ通じる階段があります。火災時の停電でも、予備電源で約20分は点灯しています。



避難誘導訓練（避難器具使用）

避難器具を使用した場合

1 火災発生

ベル鳴動

ジリジリリ！



自動火災報知設備のベルが鳴りました。
どこかで火災です。

2Fで火事だ～！

2 火災発生場所の確認



避難階段は
ダメだ！

避難階段に煙が充満し、使用できない状況です。

3 館内への報知



入居者を避難場所に誘導します。

避難器具を確認します。

4 避難器具の設定



落ち着いて避難器具を装着して・・・
付け方を間違えないように。

5 避難誘導・補助

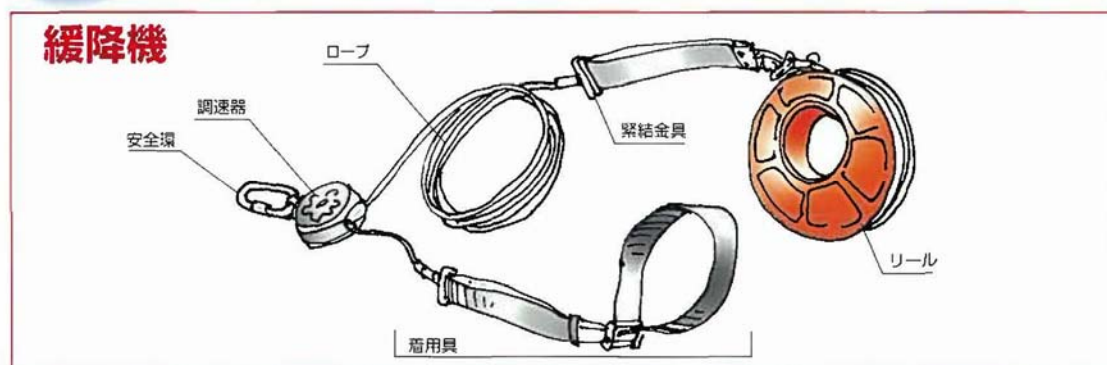


落ち着いて！
ロープをしっかり
握って
うしろ向きに出ますヨ！

避難器具の使い方を指示しながら、
避難を補助します。

※訓練のときは、事故防止のため消防機関、消防設備士の立会のもとで行うのがよいでしょう。

避難器具の使用方法（緩降機）



取付金具に調速器がしっかりと取り付けられているか確認します。



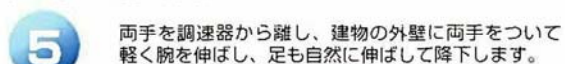
降下空間および付近の安全を確認し、リールを地上に向かって落とします。



着用具を広げて頭からかぶり、ねじれないように脇の下にしっかりと着装します。



調速器の根本のロープ2本をしっかりと握り、後ろ向きに外に出ます。



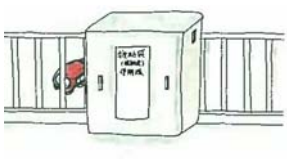
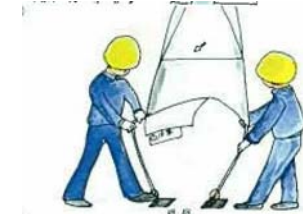
両手を調速器から離し、建物の外壁に両手をついて軽く腕を伸ばし、足も自然に伸ばして降下します。

緩降機のチェックポイント

- 着用具・ロープの傷みはないか
- 降下空間に障害物はないか
- 格納箱周辺に物は放置されていないか
- 地上に降下スペースは確保されているか

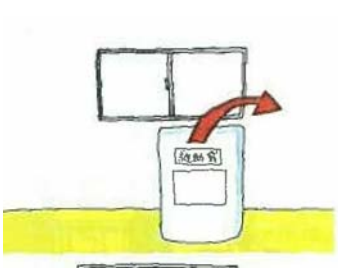
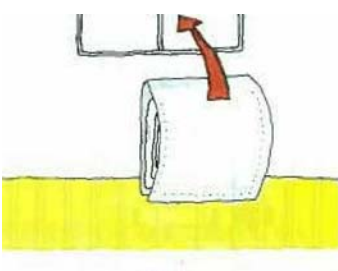
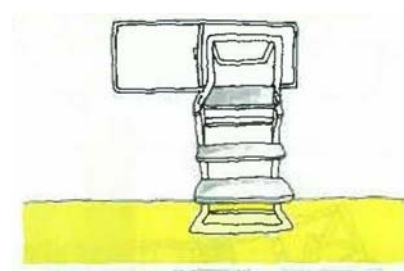
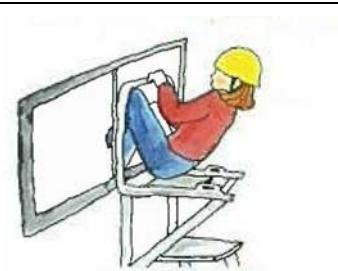
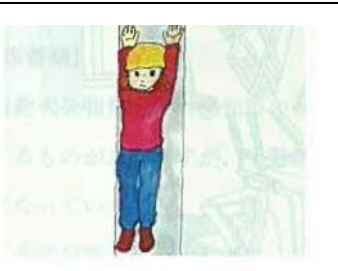


避難器具の使用方法（救助袋斜降式）

		
①カバーを外す	②誘導砂袋（ロープを地上操作員に投下する。）	③地上操作員に合図し、救助袋を降下する
		
④袋本体を降下し終わったら、支持金具を引き起こす。	⑤救助袋の支持枠を外に出す	⑥ステップを倒す
		
⑦フックを固定環にかけ、ロープを引いて救助袋を展張する	⑧端末のロープは、展張ロープと滑車の間に挟みこみ、逆方向に踏み込む	⑨ロープの端末処理を確実に行う。確認の合図を必ず受けてから降下させる
		
⑩足から救助袋に入り、降下準備が整うまで入口枠金具あるいはロープを握る	⑪降下準備ができたなら手を離し、両手を頭上に上げ、ひじを張らずに足を若干持ち上げ、腰ですべる。地上操作員は、降下者を受け布で止める	

* 一般的な取扱い方法ですので、設置の器具で再度取扱い方法を確認しましょう

避難器具の使用方法（救助袋垂直式）

		
①カバー（キャビネット）をはずす	②袋を窓から降ろす	③袋の支持枠を屋外に出す
		
④足から袋に入る	⑤身体を十分に伸ばし、両手は耳を保護する姿勢で上げ、足をまっすぐに伸ばして降下する。	⑥降下速度が速すぎる場合は、ひじ・ひざを曲げてブレーキをかける

* 一般的な取扱い方法ですので、設置の器具で再度取扱い方法を確認しましょう

避難器具の使用方法（避難はしご）

- （ア）安全装置を外して蓋をあける。
- （イ）真下に人がいないか確認する。
- （ウ）避難はしごを下ろす。
- （エ）はしごが下りきったら、階下へ下りる。



避難はしご（半固定式）